

**施策 4 循環型社会の形成**

主管部長(課) 環境清掃部長(清掃リサイクル課)  
 関係部長(課) 環境清掃部長(清掃事務所)  
 土木部長(水辺と緑の課)

**1 施策が目指す江東区の姿**

区民・事業者・区の連携による5 Rの取り組みにより、環境負荷の少ない循環型社会が実現されています。

**2 施策を実現するための取り組み**

循環型社会への啓発	区報やホームページ等、多様な情報媒体を活用するとともに、環境学習体験館「えこっくる江東」・区立小学校で行う環境学習等を通して、循環型社会への啓発を行います。
5 R(リフューズ・リデュース・リユース・リペア・リサイクル)の推進	買い物袋の持参や包装の簡素化に関するPRを行います。また、粗大ごみの再利用、リユース食器の貸し出し、資源回収の拡大等、区民・事業者の5 Rに対する取り組みを支援するとともに、更なるごみの減量に向けた取り組みを検討します。

**3 - 1 施策に影響を及ぼす環境変化(法改正・規制緩和・社会状況等)**

5年前から現在まで	今後5年間の予測(このままだとどうなるか)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H17.10 特別区長会で廃プラスチックサーマルリサイクル(廃プラスチックを焼却し、そこで発生するエネルギーを回収・利用すること)について平成20年度を本格実施の時期と定める。</li> <li>・ H18.6 容器包装リサイクル法改正(排出抑制の促進等)</li> <li>・ H20.4 ~ 廃プラスチックサーマルリサイクルが各区で本格実施</li> <li>・ H21.3 江東区で廃プラスチックサーマルリサイクルを本格実施。ごみ・資源分別を変更し容器包装プラスチック等のリサイクルを開始</li> <li>・ H21.6 江東区清掃リサイクル条例改正(資源抜き取り対策の強化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口増によりごみ量が増加し、それに伴い環境負荷が増大する。</li> <li>・ 最終処分場が逼迫する。</li> <li>・ 資源が枯渇する。</li> </ul>

**3 - 2 施策に関する区民要望・ニーズの変化**

5年前から現在まで	今後5年間の予測(このままだとどうなるか)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境負荷を軽減するごみ・資源の分別方法が求められていた。</li> <li>・ ごみ・資源の分別方法の分かりやすい説明が求められていた。</li> <li>・ 発生抑制や再利用など、ごみ減量方法についての具体的な取り組み方法や、詳しい情報が求められている。</li> <li>・ ごみ減量や資源化の新たな施策の展開が求められている。</li> <li>・ ごみに関する情報の適切な発信が求められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民のごみ減量への取り組み意識が向上せず、ごみ量が増加し、循環型社会の構築が困難となる。</li> </ul>

4 施策実現に関する指標		単位	現状値 21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 26年度	指標 担当課
16	区民1人当たり1日のごみ量	g	613 (20年度)						520	清掃リサイクル課
17	大規模建築物事業者による事業系廃棄物の再利用率	%	67.19 (20年度)						70	清掃事務所
18	資源化率	%	23.3 (20年度)						30	清掃リサイクル課

# 施策評価シート

5 施策における主要事業等		所管課	H21事業費予算	H21事業費決算 (速報値)	H22事業費予算	H23事業費予算
1	資源回収事業	清掃サイクル課・清掃事務所	1,300,737千円	1,198,264千円	1,182,594千円	
2	集団回収団体支援事業	清掃サイクル課	133,882千円	106,227千円	111,826千円	
3	大規模事業用建築物非排出指導事業	清掃事務所	2,814千円	2,118千円	1,547千円	

6 施策コストの状況					
	21年度予算	21年度決算(速報値)	22年度予算	23年度予算	
トータルコスト	8,354,592千円	7,617,407千円	7,660,555千円		
事業費	6,241,075千円	5,714,577千円	5,614,365千円		
人件費	2,113,517千円	1,902,830千円	2,046,190千円		

7 一次評価 主管部長による評価	
(1) 施策における現状と課題	
<p>平成21年3月からの分別基準の変更に伴い、ごみ・資源の分け方の周知徹底に努めてきた。3R(リデュース・リユース・リサイクル)の考えをさらに進めた「5R(リフューズ・リデュース・リユース・リペア・リサイクル)」を基本とする、さらなるごみ減量に向けた啓発を始めた。区民1人1日あたりのごみ量は着実に減少しているが、さらなる減量に向け、資源回収品目の拡大等、新たな施策を展開していく必要がある。行政単独の取り組みだけでなく、区民・事業者と協働し、自発的・積極的なごみ減量に向けた取り組みを行うことが重要である。区民・事業者の自主的な取り組みを進める、具体的な方法についての情報を共有するために、適切な情報収集と情報発信が求められている。</p>	
(2) 今後5年間の施策の取り組みの方向性	
<p>循環型社会形成のためには、生産・消費に関わるすべての人たちがライフスタイルや事業活動を見直し、環境に配慮した生活へ転換を図る必要がある。このため、今まで以上に区民・事業者・区が連携し、啓発活動やシステム作りに取り組む。5Rの推進に努め、区民・事業者と連携した新たな取り組みを検討する。5Rの推進のためには、区民が知りたい情報を適切に発信する工夫が必要であり、区政モニターアンケート等から区民ニーズを把握し、区報等広報媒体を活用し発信する。ごみ減量意識の向上のため、各種施設を活用した環境学習の充実を図る。区民の負担や利便性も考慮しながら、資源回収品目の追加を引き続き検証する。家庭ごみの減量のために、約半分を占める生ごみの減量の取り組みを進める。</p>	

8 外部評価委員会による評価	

9 二次評価 区の最終評価	

# 主要事業等説明シート

施策	4		
事業名	資源回収事業		(主要) ・ その他
所管課名	環境部 清掃リサイクル課		
事業内容	<p>区民が排出した資源物を分別収集し資源化することにより、ごみの減量を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集積所回収..集積所から、古紙 びん 缶 ペットボトル 容器包装プラスチック、発泡スチロールを回収 平成22年度より、発泡スチロールについては NPO法人が環境学習情報館(えこっくる江東)の敷地内で設置・運営するリサイクル施設で再資源化を実施</li> <li>・ 拠点回収..区間運動施設等の回収拠点から、蛍光管 乾電池を回収</li> <li>・ 店頭回収..コンビニエンスストア等の店頭から、ペットボトルを回収</li> </ul>		
事業の目的・効果	資源の分別回収を行うことにより、ごみの減量を図る。		
事業と関連する指標	指標名	単位	現状値 (21年度)
	16 区民1人当たり1日のごみ量	g	566
	18 資源化率	%	23.3 (20年度)
	目標値 (26年度)		
	520	30	

事業の活動量とコスト							
活動量			単位	21年度予算	21年度決算 (速報値)	22年度予算	23年度予算
		古紙回収量	t	5,708	6,137	5,908	
		びん・缶・ペットボトル回収量	t	7,400	7,479	7,660	
		容器包装プラスチック回収量	t	2,789	2,928	2,887	
		発泡スチロール回収量	t	184	183	190	
		乾電池回収量	t	16	15	17	
		蛍光管回収量	t	11	12	16	
		ペットボトル店頭回収量	t	138	131	143	
事業コスト			単位	21年度予算	21年度決算 (速報値)	22年度予算	23年度予算
	事業費(A)		千円	1,300,737千円	1,198,264千円	1,182,594千円	
	財源	国・都補助金等(a)	千円	0	0	0	
		利用者負担(b)	千円	0	0	0	
		一般財源(A - a - b)	千円	1,300,737	1,198,264	1,182,594	
	人件費(B)		千円	25,349	23,916	25,742	
	内訳	常勤	人	2.9	2.9	2.9	
			千円	25,349	23,916	24,998	
		再任用	人	0.0	0.0	0.2	
			千円	0	0	744	
再雇用		人	0.0	0.0	0.0		
千円	0	0	0				
トータルコスト(A+B)		千円	1,326,086	1,222,180	1,208,336		

平成22年度当初予算事業費の主な内訳			
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
委託料	1,164,195		

事業の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分別の不徹底により資源のごみへの混入が見られる。</li> <li>・ 容器包装プラスチック・発泡トレイのうち汚れが取れないものについては、資源化に適さないため燃やすごみとなるが、どの程度までなのか目安を知りたいとの声がある。</li> <li>・ さらなるごみ減量のために、費用対効果等も含めた新たな資源回収品目についての検証が必要である。</li> </ul>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民へ分別方法等についての周知啓発を引き続き積極的に行う。</li> <li>・ 新たな資源回収品目の拡大について、区民の負担や利便性も考慮した検証を行う。</li> </ul>

# 主要事業等説明シート

施策	4	
事業名	集团回収団体支援事業	(主要)・その他

所管課名	環境部 清掃リサイクル課				
事業内容	資源の集团回収を行う団体に、回収量に応じ報奨金(6円/kg)及び事務費補助金を支給する。				
事業の目的・効果	区民の自主的な資源回収への取り組みを促進し、区民のリサイクル意識の高揚につなげる。				
事業と関連する指標	指標名		単位	現状値 (21年度)	目標値 (26年度)
	16	区民1人当たり1日のごみ量	g	566	520
	18	資源化率	%	23.3 (20年度)	30

事業の活動量とコスト							
活動量			単位	21年度予算	21年度決算 (速報値)	22年度予算	23年度予算
		登録団体数	団体	798	718	721	
		実施団体数	団体		560		
		回収量	t	19,529	15,908	16,251	
事業コスト			単位	21年度予算	21年度決算 (速報値)	22年度予算	23年度予算
	事業費(A)		千円	133,882	106,227	111,826	
	財源	国・都補助金等(a)	千円	0	0	0	
		利用者負担(b)	千円	0	0	0	
		一般財源(A - a - b)	千円	133,882	106,227	111,826	
	人件費(B)		千円	5,245	4,948	4,192	
	内訳	常勤	人	0.6	0.6	0.4	
			千円	5,245	4,948	3,448	
		再任用	人	0.0	0.0	0.2	
			千円	0	0	744	
再雇用		人	0.0	0.0	0.0		
		千円	0	0	0		
トータルコスト(A+B)		千円	139,127	111,175	116,018		

平成22年度当初予算事業費の主な内訳			
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
報奨金	96,666		

事業の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民の自主的な取り組みを促進する事業であり、区民のリサイクル意識の向上が図られ、ごみ全体の減量にも貢献している。</li> <li>・ 実践団体数 集団回収量とも長期的に見て着実に増加しているが、一層の周知を進めていく必要がある。</li> </ul>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民の自主的な取り組みがさらに促進されるよう、現行事業による側面的支援を継続する。</li> <li>・ 集団回収を実践する団体数や回収量を増やしていくために、区報・ホームページ等も活用し、集団回収事業の周知・普及を行う。また、既実施団体に対し、回収品目の拡充を求めていく。</li> </ul>

# 主要事業等説明シート

施策	4		
事業名	大規模事業用建築物非出指導事業		主要・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">その他</span>

所管課名	江東区清掃事務所				
事業内容	事業用途に供する床面積の合計が3,000㎡以上の建築物の所有者を対象とした各種届出・立入調査・指導・講習会の実施				
事業の目的・効果	事業系ごみの減量・資源化が進められる。				
事業と関連する指標	指標名	単位	現状値 (21年度)	目標値 (26年度)	
	17 大規模建築物(3,000㎡以上)事業者による事業系廃棄物の再利用率	%	67.19 (20年度)	70	

事業の活動量とコスト							
活動量			単位	21年度予算	21年度決算 (速報値)	22年度予算	23年度予算
		立入り調査・指導件数	件	60	49	130	
		再利用計画書提出件数	件	636	590	643	
		廃棄物管理責任者講習会 受講者数	人	186	99	160	
			内訳等	第1回 91 第2回 95	第1回 57 第2回 42		
	保管場所設置届届出件数	件		32			
事業コスト			単位	21年度予算	21年度決算 (速報値)	22年度予算	23年度予算
	事業費(A)		千円	2,814	2,118	1,547	
	財源	国・都補助金等(a)	千円	0	0	0	
		利用者負担(b)	千円	0	0	0	
		一般財源(A - a - b)	千円	2,814	2,118	1,547	
	人件費(B)		千円	15,734	14,845	16,378	
	内訳	常勤	人	1.8	1.8	1.9	
			千円	15,734	14,845	16,378	
		再任用	人	0.0	0.0	0.0	
			千円	0	0	0	
再雇用		人	0.0	0.0	0.0		
千円	0	0	0				
トータルコスト(A+B)		千円	18,548	16,963	17,925		

平成22年度当初予算事業費の主な内訳

項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
消耗品費	43		
印刷製本費	1,095		
郵便料	409		

<p>事業の 現状と課題</p>	<p>事業用途に供する床面積の合計が3,000㎡以上の建築物を所有する事業者は、再利用計画書の提出が義務付けられており、事業系廃棄物の発生量や再利用率について、前年度実績及び当該年度における計画量を報告することとなっている。しかしながら、提出義務のある事業者における再利用計画書の提出割合は、21年度は91.8%であり向上の余地がある。</p> <p>また、指標数値は、ここ数年微増もしくは横ばい傾向であるが、事業者の再利用の取り組みは、景気の動向や企業自体の業績などに左右されるため、区の指導や働きかけが重要である。</p>
<p>今後の 方向性</p>	<p>再利用計画書未提出の事業者が、計画書を作成・提出することにより再利用への意識が高まり指標値は向上すると考える。</p> <p>また、景気の動向や企業自体の業績などに左右されない安定的な再利用を行うよう事業者へ指導を行い、講習会等機会を捉え啓発してゆく。</p>